



藤井 昇

代表取締役

姫路市出身。夜間の工業高校を卒業後、運送会社でトラックのドライバーとして勤務。結婚を機にプレス機械メーカーに転職し、約10年間勤務。その中で、独学でCADも習得した。後継者がいない会社を継承する助成金を利用して既存の会社を譲り受け、2020年に『フジテクニカル』を設立。現在に至る。



株式会社 フジテクニカル

兵庫県姫路市香寺町犬飼 869-95
URL : <https://fuji-technical.net/>

品質の追求と迅速な対応を徹底し、高い評価を得る機械金属の加工・設計会社

現地スケッチ・設計・製作をはじめ、金属加工全般、新規生産設備の製作、機械機器のメンテナンスと修理など、幅広い業務を担う『フジテクニカル』。迅速な対応で、多くのお客様から信頼を集めている。本日はタレントのダンカン氏が同社を訪問し、藤井社長にお話を伺った。

まずは、藤井社長の歩みからお聞かせ下さい。「ご出身はどこでいらっしゃいますか。」

「ここ兵庫県姫路市出身です。学生時代はバイクや車が好きで、工業系の定時制高校に入学して、昼間は運送業で働いていました。卒業後も、運送会社でトラック運転手を続けていたのです。その後、結婚を機に業界を移り、プレス機械のメーカーさんでお世話になることに。初めての業界ではありましたが、高校時代に機械設計の基礎知識は学んでいたもので、最初からスムーズに入ることができました。そちらでは主に機械設計を担当していたのですが、ある時社長が「これからはCADの時代になる」と言って、当時30万円ほどしたパソコンを貸してくださったのです。それを自宅に持ち帰って、独学でCADの勉強をするようになりました。」

「独学とは、大変だったでしょう。毎日仕事から帰って、深夜まで勉強していました。それでも、苦痛には思いません。」

「してしまっただけのことを考えて反対してはいけません。自分自身、妻の言う通り失敗してしまっただけに、子どもを路頭に迷わせることはできないと、断念しました。」

「奥様が心配されるお気持ちばかりです。家族のためを思って辞めるとしても、一つの決断だったでしょう。それでも今こうして経営者となられているということは、諦めなかったんですね。」

「良いご縁に恵まれたことが大きかったです。3年ほど前に、60歳以上の方が事業継承を行う際に、引き継ぐ側が60歳未満であれば補助金が出るという、事業継承補助金という制度がありました。子どもたちも成長していましたし、この制度を利用して独立してみようと考えたのです。そして、知り合いの鉄工所の方から、金属加工を手掛けてきたこちらの会社の前代表の方を紹介いただきました。私は設計が専門でしたが、加工や組み立ての知識もありましたし、設備も揃っていたので、これ以上ない条件でした。代表もとても良い方で、今でも時々お手伝いに来てくださるのですよ。開業に際しては、大工をしている義弟がリフォームを手伝ってくれて、本当に助かりました。そうして、2020年に『フジテクニカル』が誕生したのです。現在は、現地スケッチ・設計・製作、金属加工全般、新規生産設備制作、機械機器メンテナンス・修理を手掛けている。たくさんの方が支えてくださり、感謝ばかりです。」

「前代表も、社長のような方に引き継いでいただけて、安心されたのではないのでしょうか。お仕事をされる上で、社長が大切にしておられることは？」

「品質の追求や納期厳守は当然のこととし

でした。むしろ、学生時代よりも一生懸命勉強したような気がします(笑)。毎日少しずつ理解が深まってくのが楽しくて、時間を忘れて没頭していましたね。妻からすると、「夜な夜な何をしているんだらう」という感じだったようですが(笑)。そうして、現在につながる基礎を築くことができたのだと思います。」

「楽しいと思えると、身につくのも早いことでしょう。独立に至られたのはどのような経緯がありましたか？」

「勤め人のころから、いつか自分でやってみたいとは考えていたのです。実際二度、踏み切ろうとしたこともありましたが、しかし、まだ幼い子どもが三人おり、妻も失敗



て、特に心掛けていたのは、お客様からご連絡があったらすぐに対応するということです。緊急を要する場合には特に、すぐでも駆けつけます。お客様は、当社を信頼してご連絡してくださっているのですから、その信頼には最大限応えたいのです。」

「社長が、多くの方々から慕われている理由が分かった気がします。今後については、いかがでしょうか。」

「三人の子どもたちも、長女が26歳、次女が24歳、そして長男が22歳で無事卒業を修了し、一安心しております。私としては、この会社は一代で終えるつもりで、残りの人生は妻とのんびり仕事をしていけたらそれで良いと思っていました。ところが、長男が後を継ぎたいと言ってくれまして、せっかくなので言ってくれるのであれば、道はしっかりと作っておくから、そこから息子自身の手で発展させていってほしいです。そして、引退後は自分が作りたいものを作るために遊びに来られるような工場にしたいと伝えています(笑)。今は、しっかりと事業基盤を整えた上で引き継ぎたいと思います。今はその準備を進めています。新たに営業所を開設予定でして、人材も増やしていきたいですね。」

「ご息にとって、働く社長の姿は格好良いものだったのでしょね。本日は、ありがとうございました！」

CHECK POINT

父親の背中を追って

- ▼「子どもも大きくなったので、将来は夫婦二人でのんびりと仕事をやっていけたらそれで充分だと思っていた」と語る藤井社長。しかし、予想に反してご長男が「会社を継ぎたい」と言ってくれたそうで、「驚きましたが、嬉しかったです」と社長は笑顔を見せた。後継者不足や人材不足で廃業する会社も多数ある中で、社長にとってはうれしい誤算だったと言えるだろう。
- ▼「元々、長男はスポーツ栄養士の免許を取得して、そういった道に進みたいと言って大学に進学したんです。けれ

ども私の仕事を見る機会もあり、その中で興味を持ってくれたのかもしれませんが。やってみたくてくれたことがう純粋に嬉しかったですね」と父親の表情を見せる社長。試しにCADを教えてみると、飲み込みが早く期待が持てるとのことだ。

▼父親の格好良い背中に憧れ、飛び込むことを決めたこの道。それは決して平坦ではないと思うが、父に追いつき、やがて追い越す日がくるのかも知れない。それもまた、ひとつの親孝行なのだろう。

「家庭ではほとんどお子さんを叱ったこともないという藤井社長。やわらかな口調で優しい印象の方ですが、仕事に対しては厳しい姿勢で、周囲からはストイックと言われることが多いそうですね。ご息も家庭とは違うお父様の姿を見て、格好良いと思われたのではないのでしょうか。これから親子でお仕事をされるのが楽しみですね。私も陰ながらですが応援させていただきます！」



● ゲストインタビュアー
ダンカン (タレント)